

町立西和賀さわうち病院へ勤務しての3年間 目標による看護管理を実践して



H28.3.22 村田副院長兼総括退職記念講演会后に

町立西和賀さわうち病院
副院長兼総括看護師長
村田 純子

業務改善としては、診療材料等の定数管理を導入しました。着任当時は大学ノートに記載し、倉庫から持ってくるという仕組みで、誰が管理しているのだろうと驚きました。平成25年11月に定数管理を導入、平成27年2月SPDシステムを丸木医科器械株式会社の協力を得て導入しました。まだ、1年目ですのでコスト面での評価は不十分ですが、これから分析を行い適切に管理していきたいと考えています。

平成26年10月1日に、副院長の辞令をいただきました。岩手県の公立病院では初めての事です。副院長としての1年半の活動は「日常活動の延長が基本」と考えています。つまり、①過去があり現在がある。そして未来へ。②ひとつ一つ、1日1日の積み重ねが結果につながる。③評価は他人が決めるものである。④役（肩書き）に責任を持つこと、その覚悟が大切である。⑤1人では何も出来ないが、みんなの協力、支えがあって頑張ることができる。ということを強く感じて業務をしてきました。看護のことは総括看護師長として、多部門との関わりは副院長の肩書きを利用して話のできたことはメリットと考えます。

これらのことは、主な取組みですが故小山田先生から託された「看護の質を上げる」という私の役割を果たしたかどうかと不安になります。時々、患者さんや地域の方から「病院も変わったよ」「看護師さんたちも笑顔が良くなり、声をかけやすくなった」と話してくださる方も増えました。これも、故深澤晟雄氏の精神を受け継ぎ「病院を守ろう」という地域住民のお力、また、病院職員の頑張りによるものと感謝しております。

国の医療政策や福祉政策が厳しくなり、西和賀は少子高齢、人口減、近い将来は消滅地域とまで言われる町ですが、そこで暮らす人々は、地産地消・結の精神が脈々と受け継がれていると確信しています。住民の多数はその精神を心のよりどころに生活しています。このような町・病院で勤務できたことを誇りに思います。

ますますの西和賀町・さわうち病院の発展を心からお祈りいたして、私の任務を終りたいと思います。

平成25年4月1日に故小山田恵先生に「平成26年に病院を新築移転するが、建物が新しくなっても中で働く人の意識が変わらなければ、病院を建てる意味が半減する。病院の中で一番人数が多い看護科職員の意識を変え、看護の質を上げて欲しい」と依頼され西和賀町国民健康保険沢内病院に着任して早いもので3年が過ぎました。今年の3月31日をもちまして、無事、町立西和賀さわうち病院を退職します。平成26年10月14日新築移転をしまして病院名もあたらしくなり、私にとっても区切りの良い、10病院目での退職になります。

私が着任に当たって大切に取組んだことは、まず、組織づくりです。でも、それ以上に大事にしたことは人材育成です。看護科運営も、看護ケアの実践も人が行うことです。人を育てることが強いては、組織づくりにつながり、看護の質の向上につながるのだと信じて実践してきましたので、取り組みの一部を紹介します。

組織づくりとして取組んだことは、まず、組織図を明確にし、各部署に責任を持たせるよう権限委譲を行い、目標による管理を行いました。そのためには人の確保が重要でした。22名で外来、病棟、透析、訪問看護を行っていましたが、せめて、病棟18名を配置できるようにしたいと考え、看護学校訪問、県内研修等での情報交換に努め27人までふやすことができました(表1)。

つぎに、人材育成でした。目標による管理を取り入れ、個人が目標を設定して目標達成に向け実践したことです。委員会活動、部署活動、それが看護科活動の評価につながるように連携して行いました(図1)。そして、「1人・年2回、院外研修に参加すること」をノルマに、新しい知識の吸収に力を入れました。2年目からは、看護補助者やクラークにも看護科チームとして力を発揮して欲しいと説明し、看護師と同じように目標を決め、研修会や研究にも取組んでもらいました(表2)(表3)。

表1 看護科職員の推移

4月1日現在	25年度	26年度	27年度	25年と27年差
看護師	22	24	27	5
看護補助者	4	4	8	4
クラーク	2	2	3	1
合計	28	30	38	10

図1



表3

看護科看護研究等発表実績					
年度	発表	件数	院外場所	主催等	発表者
平成25年度	院内	2			看護師
	院外	2	県立中部病院	県立中部病院5S活動発表会	看護師
銀河ホール			西和賀町医療介護福祉研究発表会	看護師	
平成26年度	院内	5			
	院外	5	県立中部病院	県立中部病院5S活動発表会	看護師
			国保会館	地域医療研究会「秋季集会」	看護師
			国保会館	地域医療研究会「秋季集会」	看護補助者
			銀河ホール	西和賀町医療介護福祉研究発表会	看護師
岩手県民会館	岩手県看護研究学会	看護師			
平成27年度	院内	8			
	院外	9	沢内バーディン	地域医療現地研究会	看護師
			アイーナ	固定チームナーシング研究会東北地方会	看護師
			県立中部病院	県立中部病院5S活動発表会	看護補助者
			大宮ソニックシティ	全国国保地域医療学会	看護補助者
			銀河ホール	西和賀町医療介護福祉研究発表会	看護師
			県立中部病院	県立中部病院5S活動発表会	看護師
			国保会館	地域医療研究会「秋季集会」	看護師
			函館	全国自治体病院学会	看護師
県立中央病院	岩手県医療福祉連携実務者ネットワーク協議会情報交換会	看護師			

表2 ※平成27年度は1月までの数

研修参加状況				
	4月1日付	人数	出張	自費
平成25年度	看護師	22	61	53
	助手	4	0	7
	合計	26	61	60
平成26年度	看護師	23	57	138
	助手・クラーク	8	4	20
	合計	31	61	158
平成27年度	看護師	26	57	75
	助手・クラーク	11	9	18
	合計	37	66	93

さわうち病院歯科の取り組み紹介

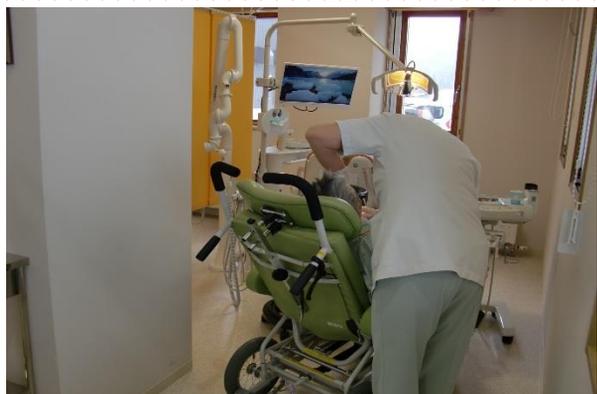
町立西和賀さわうち病院
歯科医長 内記 恵



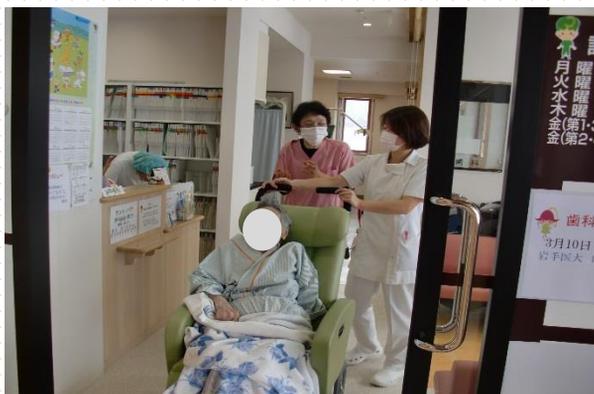
外来で診察できない患者さんはベッドサイドで診ることもあります



歯科衛生士と病棟看護師と一緒に入院患者さんの口腔診査を行なっています



病棟から歯科外来に移動して診察します



医科歯科連携を密にしています

さわうち病院歯科では、H19年度から入院患者さんの口腔診査を行っていますが、徐々に実施人数も増え、H26年度は新入院者数の47%、H27年度4月～9月は57%に行ないました。口腔診査の主な対象は、口腔清掃介助を受けている人、口から食べられていない人、普通食を食べられていない人です。

入院患者さんの口腔診査を行なっている理由は、

①身体の回復には栄養管理が必須ですが、栄養摂取の方法として口から食べる（経口摂取）のが一番良く、歯や入れ歯、口腔粘膜などの口腔内に問題があると、経口摂取が十分に出来なくなるから。

②口の汚れ（細菌）が全身状態に悪影響を及ぼすから。

③全身状態が不良になると、口腔環境が悪化し、う蝕、歯周病、入れ歯の不適合、口腔粘膜疾患、口腔乾燥など、口腔の問題がおこりやすいから。

以上3点です。

病棟での口腔診査を通じて口腔の問題を早

く発見し、口腔状態の改善、栄養状態の改善、身体の回復につなげることを目指しています。

H27年1月末からは歯科衛生士と病棟看護師と一緒に入院患者さんの口腔診査を行っており、口腔ケアの改善や義歯使用の適正化につなげています。その際歯科医師への相談の必要有と判断されれば、歯科医師が診察し、入院中に歯科治療を行なう場合もあります。

歯科治療の途中で退院される場合や、退院後も経過を見る必要がある場合、かかりつけ歯科がさわうち病院以外であれば、かかりつけ歯科医の先生に情報提供し、引きつぎをお願いしています。また口腔管理が継続されるよう、退院先の施設や家族の方へ情報提供をしたり、口腔ケア指導を行なうこともあります。

要介護の方については、地域包括センター、社協、医療施設、介護施設、行政等、様々なところの連携がとても大切だと感じています。これからも宜しくお願ひします。

平成27年度 岩手県地域医療研究会 秋季大会で受賞

町立西和賀さわうち病院
主任看護師 米澤 恵利香



病院を代表して発表しました



努力賞を受賞しました



会場の様子



人工呼吸器患者の外出の様子

昨年11月、国保診療施設、保険センター等の施設関係者が集い、第58回岩手県地域医療研究会秋季集会が開催されました。この研究会は、関係者が集団的に相互研究を重ねその機能を高めることにより、地域住民の健康の保持増進に寄与することを目的に行なわれているものです。治療や予防に関する事、運営管理や保健活動、介護保険に関する事など22題の研究発表がありました。当院からは「1日人間ドッグにおける食塩摂取状況の分析」と題して管理栄養士の菊池涼子と、「他部署との連携から見てきた服薬管理困難者への対応を考える」と題して地域包括支援センター副所長の廣田里美が発表しました。そして私は、「人工呼吸器長期療養患者の外出支援」と題して、当院に今年で5年入院している患者さんの外出までの取り組みを発表しました。高齢化が進む西和賀町において、人工呼吸器装着など医療依存の高い患者の在宅療養は訪問看護による24時間のバックアップ

体制がないことから困難な状況で、長期の入院生活を余儀なくされています。そんな中家族から「もう一度自宅を見せてあげたい」という思いを聞き、その思いに寄り添った支援ができないかと考えました。安全な自宅外出をするという目標を達成する為に、院内の多職種を巻き込み、KJ法により課題を明確化しました。そのことにより具体的な取り組み方がはっきりし、一人ひとりが役割意識を持って行動することができ、最終的に患者家族に不安を与えることなく無事に外出を終えることができました。この取り組みから家族の喜びと満足感、さらにはスタッフの達成感という相乗効果がうまれ組織的なエンパワメントが達成されました。

この発表が研究会で評価され努力賞を頂くことができました。これを励みに、今後も地域住民の思いに寄り添った看護が提供できるよう努めていきたいと思ひます。

雪あかりINにしわが2016」

町立西和賀さわうち病院
総括看護師長補佐 菊池 たみ子



職員による穴掘り隊



作業終了後の集合写真



病院正面 「みんなのあかり」



西和賀さわうち病院の作品

2月6日に西和賀町の雪の祭典である「雪あかりINにしわが2016」の行事があり、事前にワークステーションや盛岡医療福祉専門学校生・教職員・国際ボランティアグループナイスの方と打ち合わせを行い、地域の方の応援を得て西和賀さわうち病院も参加致しました。昨年の年末には雪が少なく、心配したのですが年が明けてから少しずつ積雪が見られ、ほっとしていました。

生活するには雪は少ないほうが良いのですが、こと雪あかりとなるとやはり雪があつての雪あかりですので、終わるまで解けないでほしいと願っていました。丁度良い雪山ができ、さわうち病院は、病院側のエリアを担当し、入院患者さんにも見ていただく上の方に穴を掘り、応援隊の子供たちの明るい声に元気をもらいながら作業を進めました。

今年のテーマは「さわうちの春夏秋冬」とし、職員一体となり切り絵にラミネート加工をし、ローソクの明かりで影絵となるように工夫しました。ローソクは、200本準備、プラスチックのコップには色とりどりのセロファンを貼りました。

17時の点灯時には、ゆらゆらとローソクの灯がきらめき、幻想的な景色となりました。また、その日は冷え込みが強く空にはキラキラと美しい星の輝きの助けもあり美しさが一段と増して見えました。

入院中の患者さん達からは「とってもきれいだよ」「ここが一番きれいだよ」等と声をかけていただきました。今年もオールさわうち病院クルーの、飛躍の年となってほしいと祈りながら、感動的な時間を過ごすことができました。

さわうち病院リハビリテーション科からのお知らせ

平成28年度4月1日は診療報酬が改定されます。以下に町立西和賀さわうち病院のリハビリテーションが大きく変化する点について、この場をお借りしてお知らせいたします。

①医療保険でのリハビリテーションが大きく制限されます：これは厚生労働省の指針によるものです。外来リハビリテーション患者様には個別に紙面等でご説明しております。

②介護保険でのリハビリテーション利用時間を拡大します：火・木・金曜日の通所リハビリテーションを予定しております。

医療保険改定確定後に詳細については改めてお知らせさせていただきます。ご理解ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

さわうち病院外来からのお知らせ

堀内医師の皮膚科外来は**終了**になります。

堀内医師の皮膚科診療は、都合により3月25日（金）をもって終了させていただきます。4月以降の皮膚科は北村院長が担当しますので、看護師にご相談ください。

神経内科外来を**開始**いたします。

4月より月曜日午後に神経内科外来を開始します。看護師にご相談ください。

編集後記

日本のチベットいわれる豪雪地帯の西和賀地域も、今年は暖冬の影響で雪が少なく、冬が短く感じられました。少ない雪の影響でしょうか、今年度は西和賀町外の患者さんがたくさん当院に入院されました。北上市・盛岡市・横手市など、町外の患者さんの支援にも、医療福祉連携室で関わりました。町外の患者さんから入院先に選んでいただき、大変うれしく思います。

さてこの度、さわうち病院医療福祉連携室に直通のFAXを導入いたしました。これまでより早い、連携業務が可能になりました。今まで以上の密接な連携をお願いいたします。

FAX：0197-85-3133（直通）

医療福祉連携室 高橋 豊宏



H28.3/15 今年度最後の医療福祉連携会議の様子。

医療福祉連携室発足後、1度も休まず、毎月第3火曜日に開催できました。来年度も患者さんの紹介をお願いします。

町立西和賀さわうち病院 医療福祉連携室担当 村田 純子 高橋 豊宏

〒029-5612 岩手県和賀郡西和賀町沢内字大野13-3-12

TEL:0197-85-3131 FAX:0197-85-3133(直通) E-mail:murata7135@town.nishiwaga.lg.jp